



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

レトロなビル

うちの旦那がレトロなビルを発見してきた。この間、家に戻って来るときに携帯で撮った写真を見せて、

「これ見て！今日おもしろいビルみつけてん」

と興奮して話を始めた。

その日、彼は私の友達の友達から仕事を頼まれてスチールモデルをしてきたところで、大阪のアパレル関係の会社をやってる人から依頼があって、カタログのモデルになってほしいという話だった。役者をやってればそんな話もたまにはある。彼は「俺でええのかな？」と言いつつ出

かけて行ったのだった。

その撮影場所に使われたのが大阪の西長堀というところにある細野ビルという所である。旦那はそのビルの持ち主である細野社長から聞いた話をしつつ、携帯に収めた写真を見せてくれた。

確かに昭和初期に建てられたというビルはレトロな感じでなかなかお洒落だった。彼は私が主宰している劇団のパンフレットの撮影にもいいんじゃないかと興奮していた。

細野ビルは現社長のお祖父さんにあたる細野濱吉さんが作ったそうだなんでもその人は大阪のあらゆる建築に携わった明治の建築家だったらしい。

「御堂筋とか、心斎橋や肥後橋を建てた人らしいで」

と、旦那は聞いてきたことを報告してくれた。かなり社長と話をしてきたようだった。

「明日、もういっぺん行ってみよう」ということになったのも自分のこ

とを社長が覚えてくれてる間に、私に紹介したいからという彼の考えだった。言い出したら聞かない性格だし、私もレトロなビルには滅法弱い方なので行くことになった。

次の日が日曜だったので、閉まっている可能性があるという話から一日あけて月曜に私と旦那、劇団の制作マネージャーの大西史子と3人で行った。

行ったとたんに出当の細野社長という人がビルの一階に居て、旦那がすぐに私を紹介した。

「社長、おととい撮影に来た時にモデルやっていた朝深です。覚えてくれてはりますか？ 今日には劇団の座長とマネージャーを連れてきたんです」

「ああ、そうかいな」

社長と呼ばれた細野さんは小柄なおっちゃんだった

が、さすがはお祖父さんが大阪の町を作ったという名士の孫だけはあ

った。

私たちの紹介がなされたと同時に彼はものすごい勢いで喋り出した。

「このビルはな、昭和11年に建つてん。まあ見てくれるかな、ここから見たら遠近法が使われてて面白い造りになってるのが分かるから。あ、こつちに来て見て」

と始まった彼の説明はまさしくマシンガントーク：その後2時間半たつぷりと話をするようになった。

「この人、すっげー喋るなあ」と思いつつ、明治の建築家を作った遊び心満載のビルを感心して見物、その後も座り込んでお茶まで飲みながらビルをどうして開放したか、なんで社長自ら修復作業をコツコツやってるか。いかにして嫁はんに逃げられて遊びまわったか：などなどを聞き、ちよつとついてきただけのつもりだったマネージャーの大西の顔色が、だんだん青くなつていくのを気にしながらもまた聞いた。

細野さんは、このお祖父ちゃんの代からの本社だったレトロなビルの

1階を、ギャラリーにして貸して1年になるらしい。どこにも看板を出さないでどれだけの人が、このビルに興味をもってくれるかやってみている最中だという。ビルに入って来た人には分け隔てなく説明をしているという。

「ぼくは偉くないねん、おじいさんが偉かったからな。ぼくはぼんぼんやからこんな悠長なことやってるねん」

と笑うのだが：いや居るところには居るねんなあとという、お金持ちの道楽を本気で楽しんでる人だった

なんでも彼の話を5時間聞かないと、ギャラリーは貸してもらえないという伝説があるそうだ。ということはあと半分：レトロなビルを見に行っただけが、すっかり社長の人間性に興味を持って帰って来た感じもする。久しぶりにあったインパクトのあるおっちゃんだった。

あ、写真はそのビルの地下室の明り取りのための窓である。一階の床

の部分がはめこみ式のガラスになっていて、それが地下室に行くとき明りの入ってくる窓の役割をしているのだ。昭和11年に建てられたというビルにはその他にも小さなアイデア満載で、飽きのこない素晴らしい建物だったが、そのご報告はまた撮影で借りられた時の機会に。なんせビルを見るよりも話に夢中だったので……。

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっここのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『太りすぎの雲』『イブの抜け穴』など多数。
